

健康スポーツ学分野における「日本語表現法」授業形態の検討—初年次教育の充実に資するための質的研究

新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科・
吉田重和, 遠山孝司

【背景】

初年次教育の一環として日本語表現に関する科目を設置し、学生の日本語運用能力の向上を図ろうとする試みは、全国の大学に広がっている。新潟医療福祉大学（新潟県新潟市）においても、基礎教養科目群に1年次配当科目として「日本語表現法」が設置されており、全学共通の綱領の下、各学科において授業が展開されている。

新潟医療福祉大学健康科学部健康スポーツ学科においては、例年40～60名程度の学生が「日本語表現法」を履修しており、履修人数が多いことが特徴的である。科目の性質上、少人数での授業運営が期待されるところではあるが、中規模クラスサイズの「日本語表現法」の在り方を検討することは、同学科での実践を含め、現行の日本語教育及び初年次教育の実践の充実に資するものとして、一定の意義があると思われる。

本研究においては、「日本語表現法」の授業形態について、質的研究の手法をもってこれを検討し、同授業のより良い在り方に関する暫定モデルを作成することを目的とした。

【方法】

本研究においては、まず、授業評価アンケートの結果を用い、健康スポーツ学科の「日本語表現法」の現況を確認した。その後、以下に示す2段階のプロセスにより研究を進めた。

第1プロセスにおいて、シラバスやテキストの内容及び構成に着目し、健康スポーツ学分野の学部・学科を擁する他大学の日本語表現に関する科目の内容について検討した。

第2プロセスでは、他大学において日本語表現に関する科目に携わっている研究者を対象に、実践内容に関する半構造的インタビュー調査を実施した。本インタビュー調査の結果については、構造構成的質的研究法 (Structure-Construction Qualitative Research Method; SCQRM) の手法を用い、第1プロセスの成果も踏まえつつ、「日本語表現法」授業のより良い在り方に関する暫定モデル作成へと繋げた。

【結果】

平成22年度以降の健康スポーツ学科「日本語表現法」の授業評価アンケート結果の一部を、表1に示した。同授業は、各年度すべて異なったテキストが用いられ、内容も含め毎年異なった形態で授業が展開されている。表1より、授業のわかりやすさ（項目1）やテキスト、配布資料のわかりやすさ（項目7）については、クラスサイズや選定したテキストの

影響がある可能性を読み取ることができる。

表1. 健康スポーツ学科「日本語表現法」授業評価

	22年度	23年度	24年度
項目14) 総合評価	4.38	4.58	4.64
項目1) 授業	4.18	4.42	4.58
項目7) 紙資料	4.18	4.58	4.75
評価者数	61	19	36

第1プロセスにおいて、他大学の日本語表現に関する科目のシラバス及びテキストの記載内容等を検討した結果、「対象を具体的に特定すること」「内容を細分化すること」という2つの方向性を確認することができた。

また、第2プロセスで実施したインタビュー調査結果より、日本語表現を含む初年次教育においては、教授内容を精選することに加え、「個々の学生の学習（学修）状況や能力、興味関心に合わせて個別に対応すること」「学生のやる気を引き出す雰囲気づくりを重視していること」など、学習環境の整備が重要であるとの示唆が得られた。

【考察】

本研究の成果として、「日本語表現法」授業のより良い在り方に関する暫定モデルを、図1に示した。

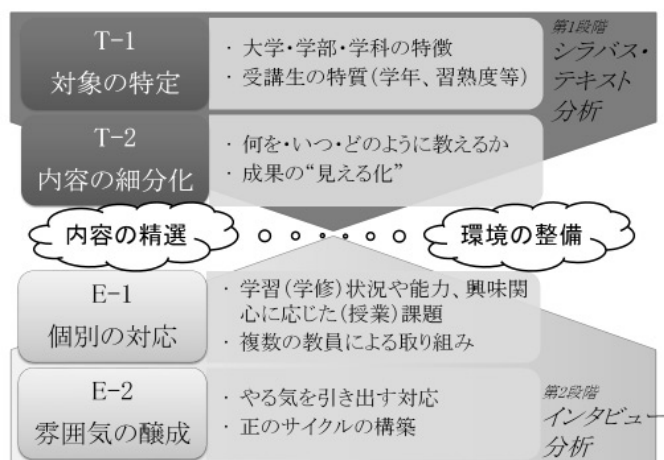


図1. 「日本語表現法」授業のより良い在り方に関する暫定モデル (ver. 1.02)

【結論】

図1に示したように、「日本語表現法」授業のより良い在り方として、受講生の特質に応じた「内容の精選」と、個別対応を含めた「環境の整備」の2点がキーワードとして挙げられた。今後は、他大学の実践検証を進めることに加え、実践面においては、学生の個別学習に対応できる環境を構築していくことが必要と思われる。

本研究は、新潟医療福祉大学 平成24年度研究奨励金 (E. 学長裁量研究費 課題番号 H24E06) の助成を受けて行われた。